

湘南鎌倉総合病院

内科専門研修プログラム

内科専門医研修プログラム	・ ・ ・ P. 2
専門研修施設群	・ ・ ・ ・ ・ P.20
専門研修プログラム管理委員会	・ P.50
各年次到達目標	・ ・ ・ ・ ・ P.52
各診療科案内	・ ・ ・ ・ ・ P.53

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準1】

1) 本プログラムは、神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏の中心的な急性期病院である湘南鎌倉総合病院を基幹施設として、同医療圏・近隣医療圏にある連携施設あるいは奄美大島群島や沖縄の離島等の特別連携施設にて内科専門研修を行う。神奈川県あるいは関東地区の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として同医療圏全域を支える内科専門医の育成を行う。

2) 当院は世界第三位の医療グループである徳洲会の旗艦病院である。我々の理念は、救急患者を断ることなく「生命だけは平等である」として、これまで僻地・離島の医療を支えてきた実績がある。こうした経緯から奄美大島群島等での医療施設とも特別連携施設として連携し、ひとの生き方を尊重した全身を診ることの出来る医師を育成する。

我々のモットーは「世にものを問う医師」として、常に患者から医学を学ぶ姿勢を貫き、それぞれの医師が臨床研究のテーマを持って医学の進歩に貢献することをめざす。

3) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間+連携・特別連携施設1年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを習得する。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基本的な診療能力である。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養をも修得して、可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力である。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴がある。さらには、人の終末をいかに迎えさせられるか、「穏やかなエンディングとは」を若い研修医時代から考えることを指導される。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とする。

使命【整備基準2】

- 1) 神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1) 高い倫理観を持ち、2) 安全な医療を心がけ、3) 最新の標準的医療を実践し、4) プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を提供し、5) 臨床研究の重要性を常に意識した医療行為を行い、6) 臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供し、7) チーム医療を円滑に運営できる研修を行う。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発

- 見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高め、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行う。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行う。
 - 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行う。

特性

- 1) 本プログラムは、神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏の中心的な急性期病院である湘南鎌倉総合病院を基幹施設として、同医療圏、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設・基幹病院とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練される。研修期間は基幹施設 2 年間+連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間である。
- 2) 湘南鎌倉総合病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標へ到達とする。
- 3) 基幹施設である湘南鎌倉総合病院は、上述医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核である。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもありコモディーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できる。
- 4) 特別連携としては、これまでに多くの実践を積み重ねてきた奄美大島群島や沖縄の離島・僻地等での研修を通して多種多様な医療を実践する。
- 5) 本研修プログラムでは、内科基本コースと各専門内科重点コースの 2 コースを用意する。内科基本コースでは、総合内科の専門性を目指す場合や、将来の subspecialty が未定な場合に、内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースである。一方、各専門内科重点コースは、将来的に専門性を高めたいと希望する subspecialty 領域を重点的に研修するコースである。
- 6) 基幹施設（東京大学医学部附属病院、聖マリアンナ医科大学病院、北里大学病院、横浜市立大学付属病院、横浜市立大学付属市民総合医療センター、都立駒込病院、札幌東徳洲会病院、湘南藤沢徳洲会病院）との連携では、より特色あるより先進的・専門的・学術的見地から研修を行うことで当基幹病院では学べないことを学ぶ機会とする。
- 7) 湘南鎌倉総合病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 2、3 年目に、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践する。
- 8) 基幹施設である湘南鎌倉総合病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾

患群、160 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できる。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とする（別表 1「各年次到達目標」参照）

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、1) 高い倫理観を持ち、2) 安全な医療を心がけ、3) 最新の標準的医療を実践し、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、5) 臨床研究の重要性を常に意識した医療行為を行い、6) 臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供し、7) チーム医療を円滑に運営できる研修を行う。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- (1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- (2) 内科系救急医療の専門医
- (3) 病院での総合内科（generality）の専門医
- (4) 総合内科的視点を持った subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得する。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにある。湘南鎌倉総合病院では、3 年前より既に「内科後期研修センター」を設置しており、内科研修医を育成してきた実績がある。

湘南鎌倉総合病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と general なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成する。そして神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要する。

また、希望者は subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などで研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果である。

2. 募集専攻医数【設備基準 27】

下記 1) ～8) により、湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 14 名とする。

- 1) 湘南鎌倉総合病院内科後期研修医は現在 3 学年併せて 24 名で 1 学年 7 名、2 学年 3 名、3 学年 14 名の実績がある。
- 2) 剖検体数は 2017 年度 31 体である。
- 3) 糖尿病・内分泌代謝、アレルギー、神経、感染症領域の患者は主に総合内科にて担当するが、その場合は各専門医が必ずアテンディングを行う。
- 4) すべての科は、入院および外来患者診療を含め、1 学年に 14 名に対し十分な症例を経験可能である。
- 5) 当院における救急総合診療科は北米型の 12 時間交代の体制をとり、主に内科系救急疾患を担当

当し、入院病床 10 床を有しており、救急患者の診療とその後の入院を各内科系診療科と連携して診療に当たっている。

表、湘南鎌倉病院診療科別診療実績

2016年実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
総合内科	1,269	47,992
消化器内科	1,548	15,975
循環器内科	4,462	34,692
糖尿病・内分泌内科	96	9,483
腎臓内科	568	13,438
呼吸器内科	811	5,204
神経内科	367	5,501
血液内科	498	12,507
リウマチ科	359	8,749
脳卒中科	792	1,835
救急総合診療科	107	43,820

※アレルギー、感染症の診療実績は、総合内科での入院患者数、外来延患者数に含まれている。

- 6) 11 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍している。
- 7) 1 学年 14 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群、120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能である。
- 8) 専攻医 2、3 年目に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能・専門病院 5 施設、地域基幹病院 1 施設および地域医療密着型病院 7 施設、計 13 施設あり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能である。
- 9) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群、160 症例以上の診療経験は達成可能である。

3. 専門知識・専門技能とは

① 専門知識【整備基準 4】[別表 1「各年次到達目標」参照]

専門知識の範囲（分野）は「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成される。

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とする。

② 専門技能【整備基準 5】[「技術・技能評価手帳」参照]

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指

す。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや、他の subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わる。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできない。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

① 到達目標【整備基準 8～10】（別表 1「各年次到達目標」参照）

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とする。

内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性がある。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定する。

○専門研修（専攻医）1年：

- ・ 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録する。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われる。
- ・ 専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録する。
- ・ 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈および治療方針決定を指導医、subspecialty 上級医とともに行うことができる。
- ・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行う。

○専門研修（専攻医）2年：

- ・ 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群 120 症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録する。
- ・ 専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）へ登録を終了する。
- ・ 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、subspecialty 上級医の監督下で行うことができる。
- ・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行う。専門研修（専攻医）1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックする。

○専門研修（専攻医）3年：

- ・ 症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とする。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる）を経験し、日本内科学会

専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録する。

- ・ 専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認する。
 - ・ 既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード（J-OSLER）による査読を受ける。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂する。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意する。
 - ・ 技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができる。
 - ・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行う。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックする。
- また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図る。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とする。日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成する。

湘南鎌倉総合病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術、技能、修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間+連携・特別連携施設 1 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長する。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させる。

② 臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得される。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験する（下記 1）～7）参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得する。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載する。また、自らが経験することのできなかつた症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足する。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにする。

- (1) 内科専攻医は、担当指導医もしくは subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽する。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲に経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する。
- (2) 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得る。また、プレ

ゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高める。

- (3) 総合内科外来（初診を含む）と subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくとも週 1 回、1 年以上担当医として経験を積む。
- (4) 後輩専攻医や初期研修医、医学生を指導しつつ、他医療職種とのチーム医療を積極的に実践する。
- (5) 英国人医師を常勤医師として招聘しており、問診聴取や身体所見の取り方など、内科の generalist としての基礎的知識を修練し、同時に国際語である英語によるコミュニケーション能力を高める。
- (6) 当直医として病棟急変などの経験を積む。
- (7) 必要に応じて、subspecialty 診療科検査を担当する。

③ 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1) 内科領域の救急対応、2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4) 医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽する。

- (1) 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
- (2) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2016 年度実績 12 回）
※内科専攻医は年に 2 回以上受講する。
- (3) CPC（基幹施設 2016 年度実績 10 回）
- (4) 研修施設群合同カンファレンス：SK 腎セミナー 6 回、CKD 鎌倉 2 回、open case conference 4 回（総合内科・ER を中心とした英語でのカンファレンス）、湘南呼吸器ケースカンファレンス 8 回、鎌倉若手消化器テクニカルカンファレンス 2 回：2016 年度実績 20 回
- (5) JMECC 受講（基幹施設：2016 年度開催実績 1 回：受講者 11 名）
※ 内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講する。
- (6) 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
- (7) 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会
- (8) 臨床研究センター設置による臨床研究への奨励
- (9) 横須賀米海軍病院との合同カンファレンスや exchange program への参加

④ 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例だが、指導者の立会いのもとで安全に実施できる、または判断できる）C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した）、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、ま

たは症例検討会を通して経験した、または症例検討会を通して経験した)、C (レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシュミレーションで学習した) と分類している。「研修カリキュラム項目表」参照

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習する。

- (1) 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
- (2) 日本内科学会雑誌にある MCQ
- (3) 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

⑤ 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いて、以下を Web ベースで日時を含めて記録する。

- (1) 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録する。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行う。
- (2) 専攻医による逆評価を入力して記録する。
- (3) 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード (J-OSLER) によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理 (アクセプト) されるまでシステム上で行う。
- (4) 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録する。
- (5) 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等 (例: CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会) の出席をシステム上に登録する。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

湘南鎌倉総合病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載した (P20「湘南鎌倉総合病院内科専門研修施設群」参照)

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である湘南鎌倉総合病院臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail など専攻医に周知し、出席を促す。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢である。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となる。

湘南鎌倉総合病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

- 1) 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
- 2) 科学的な根拠に基づいた診断治療を行う (EBM ; evidence based medicine)
- 3) 最新の知識、技能を常にアップデートする (生涯学習)
- 4) 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
- 5) 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養する。
併せて、

- 6) 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
- 7) 後輩専攻医の指導を行う。
- 8) メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行う。

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

湘南鎌倉総合病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、

- 1) 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加する（必須）。

※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC
および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨する。

- 2) 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。
- 3) 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行う。
- 4) 内科学に通じる基礎研究を行う。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにする。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行う。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨する。

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力である。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能である。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性である。

湘南鎌倉総合病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、subspecialty 上級医とともに下記 1) ～10) について積極的に研鑽する機会を与える。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である湘南鎌倉総合病院臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail など専攻医に周知し、出席を促す。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得する。

- 1) 患者とのコミュニケーション能力
- 2) 患者中心の医療の実践
- 3) 患者から学ぶ姿勢
- 4) 自己省察の姿勢
- 5) 医の倫理への配慮
- 6) 医療安全への配慮

- 7) 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
- 8) 地域医療保険活動への参画
- 9) 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- 10) 後輩医師への指導

※教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけでなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につける。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】

- 1) 内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須である。湘南鎌倉総合病院内科専門研修施設群研修施設は神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏、近隣医療圏の医療機関から構成されている。
- 2) 湘南鎌倉総合病院は神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核である。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジェーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できる。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につける。
- 3) 連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験出きることを目的に、高次機能・専門病院である東京大学医学部附属病院、聖マリアンナ医科大学病院、北里大学病院、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、都立駒込病院、札幌東徳洲会病院、国立循環器病研究センター、地域基幹病院である湘南藤沢徳洲会病院、および地域医療密着型病院である聖テレジア病院、湘南厚木病院、東京西徳洲会病院で構成している。
- 4) 高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につける。
- 5) 地域基幹病院では、湘南鎌倉総合病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修する。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねる。
- 6) 地域医療密着型病院では、地域の根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修する。
- 7) 湘南鎌倉総合病院内科専門研修施設群（P20）は、神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏、および東京都内の医療機関から構成している。もっとも距離が離れている東京西徳洲会病院は東京にあるが、湘南鎌倉総合病院から電車を利用して1時間30分程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は少ない。
- 8) 特別連携施設である瀬戸内徳洲会病院、石垣島徳洲会病院、庄内余目病院、宇和島徳洲会病院、葉山ハートセンターでの研修は、湘南鎌倉総合病院のプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導の責任を行う。電話やインターネット（スカイプ）により、リアルタイムで指導が可能である。湘南鎌倉総合病院の担当指導医が、上述病院の上級医とともに、専攻医の研

修指導にあたり、指導の質を保つ。

10. 地域医療に関する研修計画【設備基準 28,29】

湘南鎌倉総合病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としている。

湘南鎌倉総合病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できる。

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

本研修プログラムでは、内科基本コースと各専門内科重点コースの2コースを用意する。内科基本コースでは、総合内科の専門性を目指す場合や、将来の subspecialty が未定な場合に、内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースである。一方、各専門内科重点コースは、将来的に専門性を高めたいと希望する subspecialty 領域を重点的に研修するコースである。

① 内科基本コース

- 1) 主として基幹施設である湘南鎌倉総合病院内科で、専門研修（専攻医）1、2年目の2年間の専門研修を行う。
- 2) 最初の2年間で総合内科を6ヶ月と専門科を10ヶ月研修し、また2ヶ月の自由選択枠として内科系各診療科、病理科、集中治療室を選択する。
- 3) 総合内科研修の中には、神経・アレルギー・感染症・内分泌代謝の疾患も含まれる。
- 4) 3年目の総合内科研修では内科チーフレジデント(*)となり、病棟の管理や初期研修の指導にあたり、generalist としての専門的研修を行う。
- 5) なお、研修達成度によっては subspecialty 研修も可能である（個々人により異なる）。
- 6) プログラム終了後は、湘南鎌倉総合病院の内科スタッフとして、継続しての勤務が可能。

* チーフレジデントとは専門研修3年目の医師が担当し、内科緊急・夜間入院の患者の初期診療や各 subspecialty への割り振り、病棟管理、初期研修医および専攻医1.2年目医師への屋根瓦式指導を行う内科研修医のまとめ役である。

内科基本コース(例)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	総合内科(+神経、感染、アレルギー)			循環器			呼吸器		救急		連携病院	
	内科初診外来を担当											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	血液		腎臓・膠原病		ICU		連携病院		総合内科(+内分泌)		消化器	
	初診・再診外来を担当											
3年目	総合内科(チーフ業務)			連携病院			連携病院			選択(連携)		
	専門医取得準備											

図 1. 湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム（内科基本コースの 1 例）

① 専門内科重点コース

- 1) 基幹施設である湘南鎌倉総合病院内科で、専門研修（専攻医）1、2 年目の 2 年間の専門研修を行う。
- 2) 最初の 2 年間で希望専門科を 12 ヶ月とその他の専門科を 9 ヶ月研修する。
- 3) 総合内科研修の中には、神経・アレルギー・感染症・内分泌代謝の疾患も含まれる。
- 4) 3 年目の連携病院での研修では希望の専門内科を選択することも可能である。
- 5) プログラム終了後は、湘南鎌倉総合病院の内科スタッフとして、継続しての勤務が可能。

各専門科重点コース(腎臓内科を希望専門内科とした場合)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	腎臓内科						内科各科ローテ					
	内科初診外来を担当											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	内科ローテ			腎臓内科						連携病院		
	内科初診・再診外来を担当											
3年目	選択(連携)			連携病院			連携病院			腎臓		
	専門医取得準備											

図 2. 湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム（腎臓内科重点コースの 1 例）

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19-22】

(1) 湘南鎌倉総合病院臨床研修センターの役割

- ・ 湘南鎌倉総合病院内科専門研修管理委員会の事務局を行う。
- ・ 湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修 期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を基にカテゴリー別の充足状況を確認する。
- ・ 3 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促す。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促す。
- ・ 6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成 を促す。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促す。
- ・ 6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡する。
- ・ 年に複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行う。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に通じて集計され、1 カ月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促す。
- ・ 臨床研修センターはメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8月2月、必要に応じて臨時に）行う。担当指導医 subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価する。評価表では社会人としての適性、医師としての適性、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価する。評価は無記名方式で、臨床研修センターもしくは統括責任者

が各研修施設の研修委員会に委託して5名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録する（他職種はシステムにアクセスしない）。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され、担当指導医から形式的にフィードバックを行う。

- ・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応する。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- ・専攻医1人に1人の担当指導医（メンター）が湘南鎌倉総合病院内科専門医研修プログラム委員会により決定される。
- ・専攻医はWebにて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をす。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行う。
- ・専攻医は、1年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める70疾患群のうち20疾患群、60疾患群以上の経験と登録を行うようにする。2年目専門研修終了時に70疾患群のうち45疾患群、120症例以上の経験と登録を行うようにする。3年目専門研修終了時には70疾患群のうち56疾患群、160症例以上の経験の登録を終了する。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認する。
- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLERでの専攻医による症例登録の評価や臨床研究センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握する。専攻医はsubspecialtyの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談する。担当指導医とsubspecialtyの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリーの内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整する。
- ・担当指導医はsubspecialty上級医と協議し、知識、技能の評価を行う。
- ・専攻医は専門研修（専攻医）2年修了時まで29症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録する。担当指導医は専攻医が合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行う必要がある。専攻医は内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形式的評価に基づき、専門研修（専攻医）3年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂する。これによって病歴記載能力を形式的に深化させる。

(3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討する。その結果を年度ごとに湘南鎌倉総合病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認する。

(4) 修了判定基準【整備基準53】

- 1) 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し、以下i)～vi)の修了を確認する。
 - I) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し、計200症例以上

(外来症例は 20 症例まで含むことができる) を経験することを目標とする。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) に登録する。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例 (外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる) を経験し、登録済み (別表 1 「各年次到達目標」参照)。

Ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理 (アクセプト)

iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv) JMECC 受講

v) プログラムで定める講習会受講

vi) 日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価 (内科専門研修評価) と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性

2) 湘南鎌倉総合病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間終了約 1 カ月前湘南鎌倉総合病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行う。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画 (FD) の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いる。

なお、「湘南鎌倉総合病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「湘南鎌倉総合病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】と別に示す。

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34, 35, 37-39】

(P43 「湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照)

① 湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

1) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者 (内科統括部長、副院長)、プログラム管理者 (診療部長) (ともに総合内科専門医かつ指導医)、事務局代表者、内科 subspecialty 分野の研修指導責任者 (診療科科長) および連携施設担当医員で構成される。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる (P43. 湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム管理委員会参照)。湘南鎌倉総合病院内科専門研修管理委員会の事務局を、湘南鎌倉総合病院臨床研修センターにおく。

2) 湘南鎌倉総合病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置する。委員長 1 名 (指導医) は基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 6 月と 12 月に開催する湘南鎌倉総合病院内科専門研修管理委員会の委員として出席する。

基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、湘南鎌倉総合病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行う。

(1) 前年度の診療実績

a) 病院病床数、b) 内科病床数、c) 内科診療科数、d) 1 カ月あたり内科外来患者数、e) 1 カ月あたり内科入院患者数、f) 剖検数

(2) 専門研修指導医数および専攻医数

- a) 前年度の専門医の指導実績、b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数、 c) 今年度の専攻医数、d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数

(3) 前年度の学術活動

- a) 学会発表、b) 論文発表

(4) 施設状況

- a) 施設区分、b) 指導可能領域、c) 内科カンファレンス、d) 他科との合同カンファレンス、e) 抄読会、f) 机、g) 図書館、h) 文献検索システム、i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j) JMECC の開催

(5) subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医（内科）数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18, 43】

指導法の標準化のための日本内科学会作製の冊子「指導の手引」を活用する。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨する。

指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いる。

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労働管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とする。

専門研修（専攻医）1、2年目は主に基幹施設である湘南鎌倉総合病院の就業環境に、専門研修（専攻医）2、3年目は連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき、就業する（P20. 「湘南鎌倉総合病院内科専門研修施設群」参照）。

基幹施設である湘南鎌倉総合病院の整備状況：

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課、臨床心理室）がある。
- ・ハラスメント委員会が院内に整備されており、月一回開催されている。
- ・「JCI」（米国の国際医療機能評価機関）認定病院、「JMIP」（外国人患者受け入れに関する認定制度）認証病院、「ホスピタリティ／働きやすい病院評価」認定病院である。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・敷地内に院内保育所（24時間・365日運営）があり、利用可能である。

※「JCI」とは・・・米国の医療施設を対象とした第三者評価機関 Joint Commission（元 JCAHO：1951年設立）の国際部門として1994年に設立された、国際非営利団体 Joint

Commission International の略称です。世界 70 カ国 700 の医療施設が JCI の認証を取得しています。JCI のミッションは、継続的に教育やコンサルテーションサービスや国際認証・証明の提供を通じて、国際社会における医療の安全性と品質を向上させることです。

日本で JCI を取得している医療機関は、当院を含めて 13 機関（2015 年 12 月時点）で、当院は、病院施設として日本では 4 番目に認定を取得した病院です。

※「JMIP」とは・・・Japan Medical Service Accreditation for International Patients の略称であり、日本語での名称は外国人患者受入れ医療機関認証制度となります。厚生労働省が「外国人の方々が安心・安全に日本の医療サービスを楽しむように」、外国人患者の円滑な受け入れを推進する国の事業の一環として策定し、一般社団法人日本医療教育財団が医療機関の外国人受け入れ体制を中立・公平な立場で評価する認証制度です。

※「ホスピタリティ／働きやすい病院評価」とは・・・この評価認定は、働く職員にとって、家事・育児・仕事の両立【ワークライフバランス(仕事と家庭の両立)】を病院側がどのように工夫し、「働きやすい環境」を整備しているかを第三者側から評価するものです。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P20.「湘南鎌倉総合病院内科専門施設群」を参照。

また総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図る。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48-51】

① 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行う。逆評価は年に複数回行う。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行う。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧する。また集計結果に基づき、湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てる。

② 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会、湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム管理委員会および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握する。把握した事項については、湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討する。

- 1) 即時改善を要する事項
- 2) 年度内に改善を要する事項
- 3) 数年をかけて改善を要する事項
- 4) 内科領域全体で改善を要する事項
- 5) 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医

から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とする。

- ・担当指導医、施設の内科研修委員会、湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム管理委員会および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期手にモニタし、湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラムを評価する。
- ・担当指導医、各施設の内科研修委員会、湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム管理委員会および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているのかをモニタし、自律的な改善に役立てる。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てる。

③ 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

湘南鎌倉総合病院臨床研修センターと湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム管理委員会は、湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応する。その評価を基に、必要に応じて湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラムの改良を行う。

湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告する。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、Websiteでの公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集する。翌年度のプログラムへの応募者は、湘南鎌倉総合病院臨床研修センターのWebsiteの湘南鎌倉総合病院医師募集要項（湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募する。書類専攻および面接を行い、湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知する。

（問い合わせ先）湘南鎌倉総合病院後期研修センター

E-mail: ewashizuka@shonankamakura.or.jp（鷲塚英子）

n_kobayashi@shonankamakura.or.jp（小林直子）

HP: <https://www.shonankamakura.or.jp/learning-center/>

湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システムにて登録を行う。

18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証する。これに基づき、湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログ

ラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認める。他の内科専門研修プログラムから湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様である。

他の領域から湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認める。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定による。

疾病あるいは妊娠・出産・産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしていれば、休職期間が6カ月以内であれば、研修を延長する必要はないものとする。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要である。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1日8時間、週5日を基本単位とする）を行うことによって、研修実績に加算する。

留学期間は、原則として研修期間として認めない。

湘南鎌倉総合病院内科専門研修施設群

研修期間：3年（基幹施設2年間+連携・特別連携施設1年間）

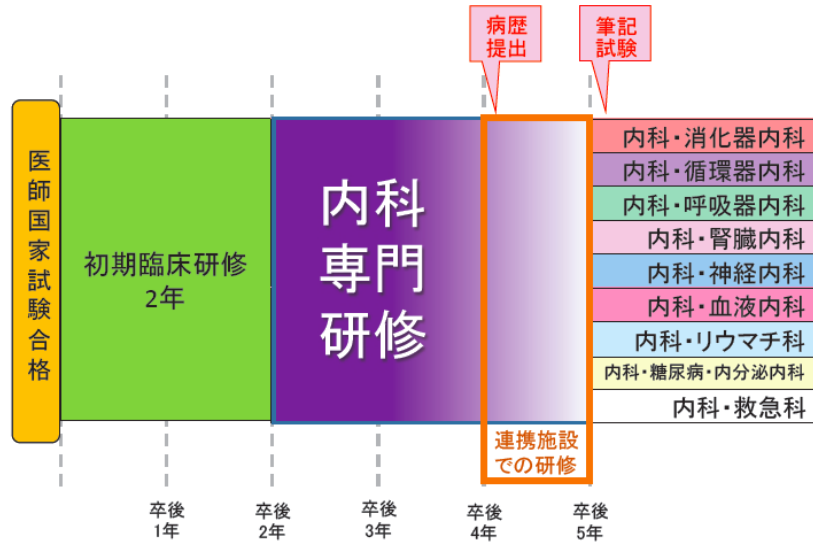


図1. 湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム（概念図）

内科基本コース(例)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	総合内科(+神経、感染、アレルギー)				循環器		呼吸器		救急	連携病院		
	内科初診外来を担当 1年目にJMECCを受講											
2年目	血液	腎臓・膠原病		ICU	連携病院			総合内科(+内分泌)		消化器		
	初診・再診外来を担当											
3年目	総合内科(チーフ業務)			連携病院			連携病院			選択(連携)		
	専門医取得準備											

図2. 湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム（内科基本コースの1例）

各専門科重点コース(腎臓内科を希望専門内科とした場合)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	腎臓内科						内科各科ローテ					
	内科初診外来を担当 1年目にJMECCを受講											
2年目	内科ローテ			腎臓内科						連携病院		
	内科初診・再診外来を担当											
3年目	選択(連携)			連携病院			連携病院			腎臓		
	専門医取得準備											

図3. 湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム（腎臓内科重点コースの1例）

湘南鎌倉総合病院内科専門医研修施設群研修施設

表 1 各研修施設の概要（平成 29 年 1 月現在）

	病院	病床数	内科系 診療科数	内科指 導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹施設	湘南鎌倉総合病院	619	13	34	18	24
連携施設	東京大学医学部附属病院	1217	17	127	80	45
連携施設	聖マリアンナ医科大学病院	1208	13	75	48	43
連携施設	北里大学病院	1033	9	59	40	38
連携施設	都立駒込病院	833	12	25	25	44
連携施設	札幌東徳洲会病院	325	9	9	2	11
連携施設	湘南藤沢徳洲会病院	419	13	15	15	9
連携施設	国立循環器病研究センター	612	10	44	18	24
連携施設	聖テレジア病院	128	2	1	1	0
連携施設	湘南厚木病院	253	7	3	3	2
連携施設	東京西徳洲会病院	418	7	3	1	0
特別連携施設	瀬戸内徳洲会病院	60	1	0	0	0
特別連携施設	石垣島徳洲会病院	49	4	1	0	0
特別連携施設	庄内余目病院	324	3	0	0	0
特別連携施設	宇和島徳洲会病院	300	4	2	0	0
特別連携施設	葉山ハートセンター	89	3	0	0	0

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
湘南鎌倉総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
聖マリアンナ医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
北里大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
都立駒込病院	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	△
横浜市立大学付属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横浜市立大学付属市民総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
札幌東徳洲会病院	○	○	○	△	△	△	○	△	△	○	△	○	○
湘南藤沢徳洲会病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	△	○	○
国立循環器病研究センター	×	×	○	△	△	△	×	×	△	×	×	×	×
聖テレジア病院	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
湘南厚木病院	○	○	○	△	△	△	○	×	△	△	×	○	○

東京西徳洲会病院	○	○	○	×	×	△	△	×	×	×	×	○	○
瀬戸内徳洲会病院	○	○	△	△	△	△	○	×	○	△	×	△	○
石垣島徳洲会病院	○	○	○	△	△	△	○	×	△	△	△	○	○
庄内余目病院	○	△	○	×	△	△	○	×	×	△	△	○	○
宇和島徳洲会病院	○	○	○	×	×	△	○	×	×	×	×	○	○
葉山ハートセンター	○	×	○	×	×	○	○	×	×	×	×	○	△

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階（○、△、×）に評価した。

（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

専門研修施設群の構成要件【設備基準 25】

- 1) 内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修が必須である。湘南鎌倉総合病院内科専門研修施設群は神奈川県および東京都内を中心とした医療機関から構成されている。
- 2) 湘南鎌倉総合病院は、神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏の中心的な急性期病院である。ここでの研修は、地域における中核的な医療機関としての役割を果たすための診療を研修する。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につける。
- 3) 連携施設・特別連携施設では、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である東京大学医学部附属病院、聖マリアンナ医科大学病院、北里大学病院、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、都立駒込病院、札幌東徳洲会病院、国立循環器病研究センター、地域基幹病院である湘南藤沢徳洲会病院、および地域医療密着型病院である聖テレジア病院、湘南厚木病院、東京西徳洲会病院、瀬戸内徳洲会病院、石垣島徳洲会病院、庄内余目病院、宇和島徳洲会病院、葉山ハートセンターで構成している。
- 4) 高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につける。
- 5) 地域基幹病院では、湘南鎌倉総合病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医経機関の果たす役割を中心とした診療をより深く研修する。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねる。
- 6) 地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療を研修する。

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- 1) 専攻医 1,2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などをもとに、研修施設を調整し決定する。
- 2) 病歴提出を終える専攻医 3 年目の 1 年間、連携施設・特別連携施設での研修を基本とする。なお、研修達成度によっては subspecialty 研修も可能である（個々人により異なる）。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏と近隣医療圏にある施設から構成している。最も距離が離れている東京西徳洲会病院は東京にあるが、湘南鎌倉総合病院から電車を利用して1時間30分程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は少ない。

奄美群島（瀬戸内徳洲会病院）および沖縄の離島病院（石垣島徳洲会病院）については、これまで徳洲会グループが僻地・離島の医療を支えてきた実績があり、電話やインターネットを利用したりアルタイムの診断・診療指導が可能となっており、連携に支障を来す可能性は少ない。

1) 専門研修基幹施設

湘南鎌倉総合病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 619 床の初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 「J C I」（米国の国際医療機能評価機関）認定病院、「J M I P」（外国人患者受入れに関する認定制度）認証病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット・WiFi 環境がある。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課、臨床心理室）がある。 ・ ハラスメント委員会が院内に整備され、月一回開催されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備され、HOSPIRATE 認証病院となっている。 ・ 敷地内に院内保育所（24 時間・365 日運営）があり、利用可能である。 <p>※「J C I」とは・・・米国の医療施設を対象とした第三者評価機関 Joint Commission（元 JCAHO：1951 年設立）の国際部門として 1994 年に設立された、国際非営利団体 Joint Commission International の略称である。世界 70 カ国 700 の医療施設が JCI の認証を取得している。JCI のミッションは、継続的に教育やコンサルテーションサービスや国際認証・証明の提供を通じて、国際社会における医療の安全性と品質を向上させることである。</p> <p>日本で J C I を取得している医療機関は、当院を含めて 13 機関（2015 年 12 月時点）で、当院は、病院施設として日本では 4 番目に認定を取得した病院である。</p> <p>※「J M I P」とは・・・Japan Medical Service Accreditation for International Patients の略称であり、日本語での名称は外国人患者受入れ医療機関認証制度となる。厚生労働省が「外国人の方々が安心・安全に日本の医療サービスを享受できるように」、外国人患者の円滑な受け入れを推進する国の事業の一環として策定し、一般社団法人日本医療教育財団が医療機関の外国人受け入れ体制を中立・公平な立場で評価する認証制度である。</p> <p>※「HOSPIRATE 認証病院」とは・・・この評価認定は、働く職員にとって、家事・育児・仕事の両立【ワークライフバランス(仕事と家庭の両立)】を病院側がどのように工夫し、「働きやすい環境」を整備しているかを第三者側から評価するものである。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内科指導医は 30 名在籍している。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム責任者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置する。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2016 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的開催（2016 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域参加型のカンファレンス（SK腎セミナー6回 CKD鎌倉2回、open case conference 4回※総合内科・ERを中心とした英語でのカンファレンス、湘南呼吸器ケースカンファレンス8回；2016年度実績20回、鎌倉若手消化器テクニカルカンファレンス2回）を定期的に行い、専攻医には受講を原則的に義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・横須賀米海軍病院との合同カンファレンスやexchange programを設ける。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2017 年度開催実績 1 回、受講者 10 名）を義務付けそのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実施調査に臨床研修センターが対応する。 ・英国人医師による問診聴取や身体所見の取り方を研修するとともに、英語によるコミュニケーション能力を向上させる。 ・特別連携施設（瀬戸内徳洲会病院、笠利病院、石垣島徳洲会病院、宮古島徳洲会病院）の専門研修では、電話やインターネット（スカイプ）で月 1 回の湘南鎌倉総合病院での面談・カンファレンスにより指導医がその施設での研修指導を行う。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 11 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できる。 ・専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 31 体）を行っている。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備している。UpToDate、DynaMed、今日の臨床サポートの医療検索ツールも充実しており、Mobile を用いた検索も全内科医師が可能な環境である。 ・倫理委員会を設置し、定期的に行う（2016 年度実績 24 回 内訳；徳洲会全体 12 回、院内 12 回）している。 ・治験管理室を設置し、定期的に行う受託研究審査会を開催（2016年度実績13回開催されている）している。再生医療のための特定認定再生医療等審査委員会も設置されCPC (cell processing center)が用意され今後の展開が可能。 ・臨床研究センターが設置されており、症例報告のみならず臨床研究への積極的な参画を推進する。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表（2016 年度実績 16 演題）を行っている。
<p>指導責任者</p>	<p>小林修三</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>湘南鎌倉総合病院は、神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院であり、神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設として内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p>

	<p>内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数	<p>日本内科学会指導医 30 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 13 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 6 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 4 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 12 名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 21,324 名 入院患者 53,258 名</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設	<p>日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会教育関連施設、日本救急医学会救急科専門医認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本病態栄養学会認定施設、日本急性血液浄化学会認定施設、日本アフェレシス学会認定施設、日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院、日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本認知症学会教育施設認定、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会認定指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設</p>

2) 専門研修連携施設

1. 東京大学医学部附属病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型臨床研修病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 東京大学医学部附属病院として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署があります。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内にキャンパス内保育施設があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 120 名以上在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 9 演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>黒川峰夫（内科部門長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>東京大学医学部附属病院は 150 年余りの歴史を持つ病床数 1,217 床を持つ我が国でも最大規模の総合病院で、特に内科は 11 の専門診療内科よりなります。当院内科では、初期研修の終了後、さらに内科学に関する知識と技能を広く向上させ、より専門的なトレーニングを行うことを可能としております。各内科診療科において、若手医師から教授にいたるまで、多くの熱心なスタッフが揃い、充実した専攻医のトレーニングを受けることが可能です。また、外科、放射線科、病理診断科とも密な連携が形成されており、カンファレンスなども広く行われております。</p>
<p>指導医数</p>	<p>日本内科学会指導医 127 名</p>

外来・入院患者数	外来患者数 760,563 人 入院患者実数 392,823 人
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 15 領域のうち、全ての総合内科Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病及び類縁疾患、感染症、救急の 15 領域について症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	連携病院として、高齢社会に対応した医療、病診・病病連携などを経験できます。
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学血液研修施設、日本神経学会教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本老年医学会認定教育施設、日本感染症学会研修施設

2. 聖マリアンナ医科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・聖マリアンナ医科大学病院任期付助教として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（保険管理センター）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 95 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2016 年度実績 医療倫理 4 回，医療安全 5 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2016 年度実績 7 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2016 年度実績 1 回）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を除く，消化器，循環器，内

【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	分泌, 代謝, 腎臓, 呼吸器, 血液, 神経, アレルギー, 膠原病, 感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表 (2016 年度実績 13 演題) をしています。
指導責任者	安田 宏 【内科専攻医へのメッセージ】 聖マリアンナ医科大学は 4 つの附属病院を有し, 神奈川県・東京都多摩地域の協力施設と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して, 質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく, 医療安全を重視し, 患者本位の医療サービスが提供でき, 医学の進歩に貢献し, 日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数	日本内科学会指導医 95 名, 日本内科学会総合内科専門医 51 名 日本消化器病学会消化器専門医 19 名, 日本循環器学会循環器専門医 26 名, 日本内分泌学会専門医 5 名, 日本糖尿病学会専門医 14 名, 日本腎臓病学会専門医 17 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 15 名, 日本血液学会血液専門医 9 名, 日本神経学会神経内科専門医 18 名, 日本アレルギー学会専門医 (内科) 8 名, 日本リウマチ学会専門医 26 名, 日本老年医学会専門医 8 名, 日本肝臓学会専門医 9
外来・入院患者数	外来患者 38,365 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 1,544 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患(感染症等)を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本老年医学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本血液学会認定研修施設、日本大腸肛門病学会専門医修練施設、日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設、日本神経学会専門医制度認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本神経学会専門医研修施設、日本内科学会認定専門医研修施設、日本老年医学会教育研修施設、日本内分泌学会

	<p>内分泌代謝科認定教育施設、日本東洋医学会研修施設、ICD/両室ペースメーカー植え込み認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本肥満学会認定肥満症専門病院、日本感染症学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本高血圧学会高血圧専門医認定施設、ステントグラフト実施施設、日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設、日本認知症学会教育施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設など</p>
--	--

3. 北里大学病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・北里大学病院シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（北里大学健康管理センター）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付けています。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、内分泌、アレルギー、感染症を除く、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、膠原病、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p> <p>また、北里大学東病院は神経内科における難病を主に受け入れており、北里大学病院と一体となって運用しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>プログラム統括責任者 小泉 和三郎</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>北里大学病院は、神奈川県政令指定都市である相模原市に立地し、二次医療圏である相模原（人口 71 万人）のみならず県央（人口 80 万人）さらには東京都町田市より多くの患者を受け入れている。高度先進医療を実施する特定機</p>

	能病院であり、同時に相模原市は市民病院を有さないことから、市民病院的な特徴も具備している。またがん診療拠点病院でもあり、県内全域の地域がん診療連携拠点病院とともに、幅広い研修が可能である。
指導医数	総合内科専門医 41 名、消化器病学会専門医 13 名、肝臓学会専門医 2 名、循環器学会専門医 13 名、内分泌学会専門医 4 名、腎臓学会専門医 7 名、糖尿病学会専門医 3 名、呼吸器学会専門医 9 名、血液学会専門医 5 名、神経学会専門医 9 名、アレルギー学会専門医 2 名、リウマチ学会専門医 6 名、感染症学会専門医 2 名、老年医学会専門医 1 名、救急医学会専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 766,068 名 入院患者 26,339 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	北里大学病院を基幹施設として、神奈川県内の県北部、県中部に位置する相模原二次医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て周辺地域の医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるようにしています。
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器内視鏡学会 専門医制度指導施設、日本糖尿病学会 認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本循環器学会 認定循環器専門医研修施設、日本腎臓学会 研修施設、日本透析医学会 認定医制度認定施設、日本血液学会 認定血液研修施設、日本神経学会 専門医制度教育施設、日本アレルギー学会 認定教育施設（膠原病感染内科）、日本リウマチ学会 教育施設、日本臨床腫瘍学会 認定研修施設、日本老年医学会認定施設、日本呼吸器学会 専門医制度認定施設、日本消化器病学会 専門医制度認定施設、日本肝臓学会 認定施設、日本脳卒中学会 専門医認定制度研修教育病院、日本呼吸器内視鏡学会 専門医制度認定施設、日本感染症学会 専門医研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

4. 横浜市立大学附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 81 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、

2) 専門研修プログラムの環境	<p>基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2016 年度実績 医療倫理 3 回、医療安全 129 回、感染対策 32 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的開催（2016 年度実績 24 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2016 年度実績 1 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2016 年度実績 21 演題）をしています。
指導責任者	<p>前田 慎</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】 横浜市立大学は 2 つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 81 名、日本内科学会総合内科専門医 49 名 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、日本内分泌学会専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 6 名、日本神経学会神経内科専門医 10 名、日本アレルギー学会専門医 (内科) 2 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 5 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 11,655 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 4,545 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を経験できます。

<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペースティング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステンントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など</p>
-------------------------	---

5. 横浜市立大学附属市民総合医療センター

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 40 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会について集合研修や e-Learning の利用により定期開催（2016 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 4 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2016 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2016 年度実績 40 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2016 年度実績 2 演題）をしています。
指導責任者	田中克明 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜市立大学は 2 つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 40 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 40,608 名（1 ヶ月平均） 入院患者 19,878 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本救急医学会指導医指定施設 救急科専門医指定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 呼吸療法専門医研修施設 日本アフェレシス学会認定施設 日本輸血

	細胞治療学会認定医制度指定施設 N S T 稼働施設 日本救急撮影技師認定機構 実地研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本高 血圧学会専門医認定施設 日本急性血液浄化学会認定施設 など
--	---

6. 都立駒込病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。・東京都非常勤医師として労務環境が保障されている。・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課)がある。・ハラスメント相談窓口が庶務課に整備されている。・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 25 名在籍している(下記)。・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹 施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2016 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全研修会 9 回、感染対策講習会 3 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・研修施設群合同カンファレンス(2018 年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・CPC を定期的開催(2016 年度実績：10 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための 時間的余裕を与える。・地域参加型のカンファレンス(2016 年度実績：地区医師会・駒込病院研修会 12 回)を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を 与える。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症の 9 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2014 年度実績：関東地方会 7 演題,総会 2 演題)を予定している。
指導責任者	神澤輝実 【内科専攻医へのメッセージ】 東京都立駒込病院は総合基盤を備えたがんと感染症を重視した病院であるとともに、東京都区中央部の 2 次救急病院でもあります。都立駒込病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 25 名、日本内科学会総合内科専門医 25 名、日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本消化器内視鏡学会専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、日本透析医学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸

	器専門医 4 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 9 名、日本造血細胞移植学会専門医 4 名、日本アレルギー学会専門医(内科) 1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本神経学会専門医 3 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本臨床腫瘍学会指導医 1 名；暫定指導医 3 名、がん治療認定医機構指導医 33 名、日本プライマリケア関連学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 28918 名(26 年度 1 ケ月平均) 入院患者 1188 名(26 年度 1 ケ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定内科専門医教育病院、日本リウマチ学会教育施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本アレルギー学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設、日本呼吸器学会認定医制度認定施設、日本腎臓学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本神経学会認定医制度教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本感染症学会モデル研修施設、日本プライマリケア関連学会認定医研修施設、日本腎臓学会専門医制度研修施設、日本胆道学会指導施設

7. 札幌東徳洲会病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ JCI(Joint Commission International)の認定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 札幌東徳洲会病院 常勤または非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ ハラスメント委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 9 名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置される、プログラム管理委員会と連携を図ります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2016年度実績12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2016年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（札幌東徳洲会病院と救急隊の救急医療合同カンファレンス、札幌東徳洲会病院主催のCPC 検討会、札幌東徳洲会病院 GIM カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2016年度実績8体、2015年度8体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・当院は臨床研究センターを有しており、臨床研究に必要な環境整備をしています。 ・医の倫理委員会を設置し、定期的に開催（2016年度実績3回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計4演題以上の学会発表（2016年度実績4演題）をしています。
指導責任者	<p>山崎誠治(プログラム責任者・副院長)</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>札幌東徳洲会病院は、北海道札幌市北東部医療圏の中心的な急性期病院であり、連携施設の旭川医科大学病院、江別市立病院、帯広徳洲会病院と特別連携施設のひまわりクリニックきょうごくからなる施設群で内科専門研修を行い、救急医療から高度先進医療または地域医療にも十分貢献できる研修プログラムを作成し、専攻医の先生には内科専門医を目指して頂きます。</p> <p>また当院は診療科間の垣根が低く、先生同士のコミュニケーションが取りやすい環境や、基幹・連携病院の環境を活かして、密度の濃い充実した内科専門医研修を提供しています。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医9名、日本内科学会総合内科専門医2名、日本消化器病学会消化器専門医9名、日本消化器内視鏡学会専門医8名、日本循環器学会循環器専門医3名、日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医3名、日本心血管インターベンション治療学会認定医2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医1名、日本血液学会血液専門医1名、日本神経学会神経内科専門医1名、日本アレルギー学会専門医（内科）3名、日本救急医学会救急科専門医3名、ほか
外来・入院患者数	2016年度 年間外来患者数 203,939人(1カ月平均 16,994人) 新入院 10,075人(1カ月平均 839人) 述患者数 108,490人(月平均 9,040人)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群

	の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本消化器内視鏡学会、日本大腸肛門病学会、日本消化器病学会、日本静脈経腸栄養学会・NST 稼働認定施設、日本がん治療認定医機構認定施設、日本呼吸器内視鏡学会、日本循環器学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本呼吸器学会関連施設、日本血液学会、日本認知症学会、日本不整脈学会、日本禁煙学会

8. 湘南藤沢徳洲会病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度 基幹型研修指定病院。 ・施設内全域 Wifi 接続可 ・常勤医師として労務環境が保障される。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（自施設・当法人）にあり。 ・ハラスメント委員会は院内に整備。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されている。 ・敷地内に 24 時間利用可能な院内保育所あり。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内科指導医は 12 名在籍。 ・研修管理委員会直轄の臨床研修センターを設置しており、施設内で研修する専攻医の研修を管理する。 ・研修管理委員会及び臨床研修センターを中心に基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2016 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に行う（2016 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行うし、専攻医に受講を義務付けている。（2016 年招へい：Dr. Tierney, Dr. Dhaliwal、青木眞先生、徳田安春先生等） ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016 年度開催実績 1 回：受講者 5 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応する。 ・特別連携施設の研修を行う場合，定期的な電話・WEB システム等で湘南藤沢徳洲会病院の指導医と面談・カンファレンスを行うことでその施設での研修指導を行う。
認定基準 【整備基準 24】	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。

3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修可能。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度内科実績 15 体、2012 年度 10 体）を行っている。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・UPTODATE・Dynamed・Medical Online 等は法人で契約しており、すべて無償利用可能。 ・臨床研究に必要な図書室（医学情報センター）を整備。専任の図書司書が 2 名常駐、24 時間利用可能。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を行っている。（2014 年度実績 7 演題）
指導責任者	松井 圭司
指導医数	12 名
外来・入院患者数	外来平均患者（1 日） 平日：1,191 名 土曜日：854 人 日祝祭日 131 名。 入院平均患者（1 日） 351.3 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設	日本内科学会認定教育施設、日本肝臓学会認定施設、日本病理学会研修認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設、日本アレルギー学会認定教育施設（内科）、日本神経学会専門医制度教育施設、日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療後期研修プログラム_ver2.0、日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療後期研修プログラム_ver.1.0 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本頭痛学会認定研修教育施設、日本認知症学会教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本大腸肛門病学会認定施設証、日本病院総合診療医学会認定施設、日本癌治療認定医機構 認定研修施設、日本消化器外科学会関連施設など

9. 鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な医局図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院非常勤医師として労務環境が保障されています。
--------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課人事担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会総合内科専門医が1名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2016年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である湘南鎌倉総合病院で行うCPC、もしくは日本内科学会が企画するCPCの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（脳卒中研究会）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、神経の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>足立徹也</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院は神奈川県横須賀三浦医療圏の鎌倉市南部に位置し、地域の回復期医療を担っています。</p> <p>外来診療では一般内科をはじめ、神経内科の専門外来もおこなっております。入院診療については、回復期リハビリテーション病棟にて内科的全身管理を研修していただきます。</p> <p>また、同法人にて特別養護老人ホームや訪問看護ステーション、看護小規模多機能施設等、介護系事業所を有しており、将来を見据えた地域包括システムの構築等も研修することができます。</p>
<p>指導医数</p>	<p>日本内科学会総合内科専門医 1名、日本神経学会神経内科専門医 3名、日本脳卒中学会専門医 1名、日本老年医学会専門医 1名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 1,414名（1ヶ月平均） 入院患者 113名（1日平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめてまれな疾患を除いて、研修手帳にある13領域、70疾患群の症例の中で、特に神経疾患を多く経験できます。</p>
<p>経験できる技術・</p>	<p>技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。脳</p>

技能	卒中後の栄養管理（嚥下障害）、褥瘡管理、リハビリテーションに関する技術・技能を研修することが可能です。
経験できる地域医療・診療連携	当院では入院患者に対し医師、看護師、リハビリセラピスト、介護士、薬剤師、栄養士、MSWによるチーム医療を実践しています。チーム医療における医師の役割を研修します。また、急性期病院との定期的な連携パス会議も開催しているので、地域の病病連携についても研修していただきます。
学会認定施設	日本神経学会専門医教育施設、日本脳卒中学会認定教育病院

10. 国立循環器病研究センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室担当）があります。 ・ハラスメント委員会が総務部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	<p>指導医は 44 名在籍しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2016 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2016 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2016 年度実績 2 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 1 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2016 年度実績 85 演題）をしています。
指導責任者	野口 暉夫 【内科専攻医へのメッセージ】 国立循環器病研究センターは、豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施

	設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 44 名、日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器専門医 0 名、日本肝臓病学会専門医 0 名 日本循環器学会循環器専門医 21 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、 日本内分泌学会専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 0 名、日本血液学会血液専門医 0 名、 日本神経学会神経内科専門医 17 名、日本アレルギー学会専門医 (内科) 0 名、 日本リウマチ学会専門医 0 名、日本感染症学会専門医 0 名、 日本救急医学会救急科専門医 0 名
外来・入院患者数	外来患者 8710 名 (平均延数/月) 入院患者 7501 名 (平均数/月)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 1 領域、10 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設 日本脳卒中学会研修施設 日本高血圧学会研修施設など

11. 湘南厚木病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルヘルスカウンセリングを利用できます。 ・ハラスメント委員会、コンプライアンス委員会があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室当直室が整備されています。 ・院内に保育園があり、24 時間保育を利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 3 名在籍しています (下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹

2) 専門研修プログラムの環境	<p>施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（全職員対象研修年3回、E-learning）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2016年度実績2回）、し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2014年度実績2体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2016年度実績2演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2016年度実績2回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2016年度実績12回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	<p>中山 剛</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院では急性期総合病院や地域医療で活躍できる病院総合医としての研修，内科系専門医を目指す上で基盤となる幅広い一般内科の研修を目的とします。</p>
指導医数	<p>日本内科学会指導医 3 名，日本内科学会総合内科専門医 3 名，日本消化器病学会消化器専門医 1 名，日本循環器学会循環器専門医 1 名，日本アレルギー学会専門医（内科） 1 名，日本救急医学会専門医 2 名，日本消化器内視鏡学会専門医 1 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名。</p>
外来・入院患者数	<p>内科外来延患者数 22,382 人、内科新入院患者数 684 人</p>
経験できる疾患群	<p>1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，総合内科ⅠⅡⅢを中心に，13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>1) 技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を参考に，救急・プライマリーケア，ベッドサイドでの技術・技能を幅広く経験することができます。</p> <p>2) 消化器内視鏡症例が多く，担当医となることで内視鏡検査，治療内視鏡を経験できます。</p> <p>3) 悪性疾患の診断・治療，特に化学療法や緩和支援治療を経験できます</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>ドクターカーを使用した救急診療，在宅訪問診療，緩和ケア治療，終末期の在宅診療などを経験できます。</p>
学会認定施設	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会専門医制度関連施設、日本消化管学会胃腸科暫定指導施設、日本透析医学</p>

12. 東京西徳洲会病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 東京西徳洲会病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が2名在籍しています。（下記） ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2016年度実績 医療倫理1回，医療安全2回，感染対策2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018年度予定）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ 当院。および、基幹施設である湘南鎌倉総合病院で行うCPCの受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えています。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2016年度実績1回）を定期的に行うし，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器，循環器，および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>堂前洋</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>総合内科、循環器、消化器疾患、内分泌、代謝、呼吸器、救急の診断と治療の基礎から、より専門的医療を研修できます。特に急性期治療においては、救急搬送患者の初療、高度な循環器インターベンション治療、内視鏡を駆使した消化器疾患の治療・検査を24時間実施可能です。</p> <p>また、慢性期医療についても心不全やCOPDを始め、糖尿病の管理、糖尿病を原因と</p>

	する慢性腎不全への予防、在宅復帰を目指す慢性療養患者治療、在宅医療まで幅広く研修する事も可能です。
指導医数	総合内科専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名
外来・入院患者数	H28.12 月（外来延数 17,195 名, 入院延数 623 名）
経験できる疾患群	13 領域のうち, 9 領域 39 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本プライマリケア学会家庭医養成プログラム Ver.2 日本消化器内視鏡学会指導施設

3) 専門研修特別連携施設

1. 瀬戸内徳洲会病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期医療研修における地域医療研修施設（協力型）です。 ・研修に必要な医局内図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・瀬戸内徳洲会病院非常勤医師として労働環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医および事務担当）がいます。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。 ・医師用の借上げ宿舎完備（インターネット環境（Wi-Fi）あり）
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修施設群合同カンファレンス（湘南鎌倉病院と提携）を定期的で開催して、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。基幹病院である湘南鎌倉病院で開催される CPC の受講を受講を義務付け、その時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、呼吸器、神経、救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。救急は高度ではなく、1 次 2 次救急疾患より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会、同地方会、あるいは徳洲会グループの離島ブロック研修会で年数回の発表を予定しています。
指導責任者	桶田 順一（副院長、内科）
指導医数	日本内科学会認定医 1 名

外来・入院患者数	外来患者2070名（1ヶ月平均）、入院患者53.4名（1日平均）
経験できる疾患群	13領域、70疾患群の症例については、慢性長期療養患者の診療を通じて、複数の疾患を合併する高齢者の治療、全身管理、今後の療養の方針について深く学ぶことが可能です。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術、技能を地域の内科的な中心の病院で学んでいきます。外来などを通じて、診療技術の向上を目指します。患者様の家族などとも深くコミュニケーションをとれるようにします。リハビリスタッフ・看護師などのパラメディカルとも良好なコミュニケーションをとれるように指導していきます。
経験できる地域医療・診療連携	患者様が退院していく中で、外来での治療方針、あるいは今後自宅へ帰宅してからの介護サービスの提案などが出来るよう指導していきます。ケアマネージャー、ヘルパー、他施設職員とも患者様を中心としたより良い治療介護サービスが受けられるように、綿密にコミュニケーションをとれるように指導します。
学会認定施設	なし

2. 石垣島徳洲会病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期医療研修における地域医療研修施設。 ・研修に必要な図書・インターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹病院に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2016年実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、参加できるよう調整します。 ・基幹病院である湘南鎌倉総合病院で行うCPC、もしくは日本内科学会が企画するCPCの受講を専攻医が受講できるように調整します。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科・消化器・呼吸器・及び救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・救急分野では一次・二次の内科救急疾患・より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年1演題以上の学会発表を予定。
指導責任者	<p>吉俣哲志</p> <p>石垣島徳洲会病院は沖縄県石垣島にあり、平成16年開院。常勤医は内科・外科の各1名。非常勤医師が整形外科・泌尿器科・循環器科・透析・心臓血管外科を診療しています。</p>

指導医数	日本内科学会指導医 1名
外来・入院患者数	平成26年度（1日平均）：入院患者数41.4名・外来患者数115.2名
経験できる疾患群	研修手帳にある13領域、70疾患群の症例については、総合内科外来、高齢者慢性長期療養患者の診療を通して、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療、全身管理、今後の治療方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を高齢者・慢性長期療養患者の診療を通して経験していただきます。健診・健診後の精査、内科外来としての診療・入院診療へと繋ぐ流れ、患者本人のみならず、家族とのコミュニケーションの在り方など。嚥下機能評価・褥瘡についてのアプローチなどを経験していただきます。
経験できる地域医療・診療連携	転院してくる患者への治療、療養が必要な入院患者への多職種及び家族と共に今後の方針・療養の場の決定と、その実施へ向けた調整など。在宅へ復帰する患者へ対しては外来診療・訪問診療、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによる医療と介護の連携など。
学会認定施設	なし

3. 庄内余目病院

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・当院は協力型臨床研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・セクシュアルハラスメントに関する相談窓口を設置し、規程を設けております。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、24時間利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2016年度実績 医療倫理5回、医療安全7回、感染対策7回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設を中心に研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。また、症例が無い場合は、基幹施設で開催するCPC、若しくは日本内科学会が企画するCPCの受講を義務付け、時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、循環器分野を中心とした専門研修が可能な症例数を診療しています。

認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会及び同地方会に必ず参加し、年間で1演題以上の学会発表を目標としています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会を設け、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も出来る環境を整えております。
指導責任者	菊池正（副院長、心臓センター長）
指導医数	・日本内科学会総合内科専門医 1名
外来・入院患者数	外来患者 2,497名（1ヶ月平均）、入院患者 90名（1日平均）
経験できる疾患群	・研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群のうち、総合内科、循環器を中心とした症例を経験することが出来る。
経験できる技術・技能	・循環器内科全般の全身管理、心臓カテーテル検査、ペースメーカー等の手技も習得することが出来る。
経験できる地域医療・診療連携	・在宅医療、終末期の在宅診療、在宅維持透析まで幅広く経験することが出来る。
学会認定施設	<ul style="list-style-type: none"> ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本消化器内視鏡学会指導施設 ・日本プライマリ・ケア連合学会研修施設

4. 葉山ハートセンター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期医療研修における地域医療研修施設です ・研修に必要な医局図書とインターネット環境（Wi-Fi）があります ・メンタルストレスに適切に対処する産業医がいます ・女性専攻医が安心して勤務できる当直室が整備されています ・院内保育所があり、利用可能です。 ・医師用の借上げ宿舎完備
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・研修施設群合同カンファレンス（湘南鎌倉総合病院と提携）を定期的で開催して、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。基幹病院である湘南鎌倉総合病院で開催されるCPCの受講を義務付け、その時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科13領域分野のうち、救急医学、循環器学、腎臓学の分野で専門研修が可能な症例数を診療します。救急は循環器疾患が中心になります。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会、同地方会、あるいは徳洲会グループの研修会で年間1演題以上の発表を予定しています。
指導責任者	福内 史子
指導医数	日本東世紀医学会透析指導医1名

	日本内科学会認定医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 2,310 名 (1ヶ月平均)、入院患者 32.7 名 (1日平均)
経験できる疾患群	高血圧、高脂血症、糖尿病、腎不全、心不全、狭心症、弁膜症、不整脈、心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症、睡眠時無呼吸症候群など
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術、技能について心臓疾患を中心に学んでいきます。外来などを通じて、診療技術の向上を目指します。患者様の家族などとも深くコミュニケーションをとれるようにします。リハビリスタッフ・看護師などのパラメディカルとも良好なコミュニケーションをとれるように指導していきます。
経験できる地域医療・診療連携	患者様が退院していく中で、外来での治療方針などを医師・看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士などによる他職種連携を実践し指導していきます
学会認定施設	なし

5. 宇和島徳洲会病院

専門医・指導医数	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会認定総合内科専門医 2名 ・日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医 1名 ・日本内科学会総合内科指導医 1名 ・日本病院総合診療医学会認定病院総合診療医 1名 ・総合診療専門研修指導医 2名 ・消化器内視鏡専門医 1名 ・日本整形外科学会整形外科専門医 1名 ・日本外科学会外科専門医 1名
診療科別の患者数 (月)	<p>【外来】</p> <p>内科:1,091名 循環器内科:133名 外科:284名 整形外科:92名 泌尿器科:609名 消化器内科:100名 婦人科:3名 神経内科:0名 もの忘れ:92名 人工透析:793名 リハビリ:163名 健診:178名 ドック:73名 通所リハビリ:401名 訪問診療:99名 訪問リハ:130名</p> <p>【入院】</p> <p>内科:1,928名 循環器内科:4名 外科:219名 整形外科:508名 泌尿器科:854名 消化器内科:42名</p> <p style="text-align: right;">[H30年1月データ]</p>
病床数	<p>全病床数 (300床)</p> <p>内訳 一般病棟 (133床)、回復期リハビリ病棟 (32床) 障害者病棟 (54床)、医療療養病棟 (54床)、休床 (27床)</p>

病院の特徴

- ・愛媛県の南予地方に位置する宇和島市に 2004 年に設立されました。
- ・宇和島市は人口約 8 万人、高齢化率 37.5%の超高齢化社会を迎えています。
- ・「患者さんと家族の生活を大切にする医療」を目指し、地域密着型の病院として、急性期と在宅との中間施設としての役割を担っています。
- ・一般病棟 133 床、回復期病棟 32 床、障害者病棟 54 床、医療療養病棟 54 床を併せ持つケアミックス病院で、急性期から回復期、在宅医療までトータルに診る病院です。
- ・二次救急の指定を受けており、年間の搬送件数は約 1,000 件、地域で 2 番目の実績を誇ります。
- ・日本の 20 年先をいく宇和島では、高齢化に伴い認知症の患者が増えており、認知症疾患を地域でどう診ていくかという課題にも「もの忘れ外来」等を設け、積極的に取り組んでいます。認知症患者の入院数は、愛媛県ナンバーワンです。
- ・地域全体を見渡せる環境で、地域包括ケアシステム展開できる格好の研修施設です。
- ・昨年認定を受けた総合診療プログラムでは、在宅医療、認知症を診ることができる総合診療専門医の育成に力を入れおり、地域性を活かしたバリエーション豊かな研修内容で、日本全国どこでも通用する総合診療医の育成を目指します。
- ・H30 年より、消化器内視鏡専門医をもつ院長を迎え、内視鏡研修施設を完備しました。これにより、内科研修のローテート、総合診療専攻医等の研修でも内視鏡の技術を習得することが出来るようになりました。
- ・1,000 例を超える腎臓移植の経験を持つ医師が率いる泌尿器科では、ほぼ毎週生体腎移植を行っています。
- ・開院以来取り組んできた修復腎移植が、条件付きで先進医療に認められました。

湘南鎌倉総合病院内科専門研修プログラム管理委員会

湘南鎌倉総合病院

小林 修三	(プログラム統括責任者、副院長、内科統括部長)
守矢 英和	(プログラム管理委員長)
北川 泉	(内科研修委員長、総合内科分野責任者)
賀古 眞	(消化器分野責任者)
大竹 剛靖	(腎臓分野責任者)
日高 寿美	(膠原病分野責任者)
玉井 洋太郎	(血液分野責任者)
野間 聖	(呼吸器分野責任者)
吉澤 和希	(膠原病分野責任者)
川田 純也	(神経分野責任者)
小見 理恵子	(内分泌代謝分野責任者)
小泉 一也	(消化器分野責任者)
田中 穰	(循環器分野責任者)
中井 紀嘉	(神経・脳卒中分野責任者)
山上 浩	(救急分野責任者)
鷺塚 英子	(事務局代表、臨床研修センター事務担当)
小林 直子	(事務局代表、臨床研修センター事務担当)

連携施設担当委員

東京大学医学部附属病院	江頭 正人
聖マリアンナ医科大学病院	安田 宏
北里大学病院	小泉 和三郎
横浜市立大学附属病院	田中 章景
横浜市立大学附属市民総合医療センター	平和 伸仁
都立駒込病院	小泉 浩一
札幌東徳洲会病院	山崎 誠治
湘南藤沢徳洲会病院	清水 弘仁
国立循環器病研究センター	野口 暉夫
聖テレジア病院	足立 徹也
湘南厚木病院	中山 剛
東京西徳洲会病院	山本 龍一
瀬戸内徳洲会病院	朴澤 憲和
石垣島徳洲会病院	池原 康一
庄内余目病院	寺田 泰
宇和島徳洲会病院	貞島 博通

葉山ハートセンター
オブザーバー

内科専攻医代表

内科専攻医代表

小田 利道

宮川 峻

小池 達也

別表 1 各年次到達目標

	内容	専攻医 3 年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医 3 年修了時 修了要件	専攻医 2 年修了時 経験目標	専攻医 2 年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
	総合内科 I (一般)	1	1※2	1		
	総合内科 II (高齢者)	1	1※2	1		2
	総合内科 III (腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5 以上※1※2	5 以上※1		3※1
	循環器	10	5 以上※2	5 以上		3
	内分泌	4	2 以上※2	2 以上		3※4
	代謝	5	3 以上※2	3 以上		
	腎臓	7	4 以上※2	4 以上		2
	呼吸器	8	4 以上※2	4 以上		3
	血液	3	2 以上※2	2 以上		2
	神経	9	5 以上※2	5 以上		2
	アレルギー	2	1 以上※2	1 以上		1
	膠原病	2	1 以上※2	1 以上		1
	感染症	4	2 以上※2	2 以上		2
	救急	4	4※2	4		2
	外科紹介症例					2
	剖検症例					1
	合計※5	70 疾患群	56 疾患群 (任意選択含む)	45 疾患群 (任意選択含む)	20 疾患群	29 症例 (外来は最大 7) ※3
	症例数※5	200 以上 (外来は最大 20)	160 以上 (外来は最大 16)	120 以上	60 以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験とする

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する

例) 「内分泌」2 例 + 「代謝」1 例、「内分泌」1 例 + 「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。

別表 2 湘南鎌倉総合病院内科専門研修 総合内科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	内科朝カンファレンス（全診療内科合同）						休暇／担当患者の病態に応じた診療／日当直／講習会・学会参加
	入院患者診療	内科初診	入院患者診療	内科再診	入院患者診療	入院患者診療	
			内視鏡検査		多職種カンファレンス		
午後	入院患者診療	入院患者診療	画像カンファレンス	入院患者診療	画像カンファレンス	内科カンファレンス／レクチャー／担当患者の病態に応じた診療／日当直／講習会・学会参加	
	入院患者診療 ランチ先生教育回診	入院患者診療	入院患者診療 定期開催：レクチャー、CPC など	入院患者診療	内科・ER 合同カンファレンス		
	シニアカンファレンス				抄読会		
	内科夕カンファレンス後、内科当直						

★ 総合内科の特徴

救急を主体とした急性期病院の中で、総合内科が主体となり専門内科と協力しながら内科診療に当たっている。外来診療から、入院では集中治療、高齢者ケア、緩和ケアまで幅広く診療を行っている。当院においてはホスピタリストとして役目も大きい。急性期病院（619床）であり、そのうち内科は260床を持つ中その半数は総合内科での入院となっている。救急車の受け入れ台数は年間13000台以上にのぼり、病院全体の入院患者の約3割が、総合内科入院が担当している。地域、院内でも必要とされる科として確立されている。いままでも数多くの日本の医療に必要とされる general mind の持った医師を全国に輩出している。その進路は多岐にわたっている。

★ 総合内科専門研修の到達目標

離島僻地から都会まで、診療所から急性期病院まで「いつでも、どこでも最高のパフォーマンスを発揮できる内科医」これが私たちが掲げる後期研修の目標である。特定の臓器に限定することなく、最新の臨床知見を活用し、患者中心の医療を実践する。そこには高い診断力が必要とされる。院内でのチーム医療ではリーダーシップを発揮し、専門内科と連携を行い、安全で質の高い医療を行う。基本的臨床能力に関して初期研修医を指導、教育・サポートし、屋根瓦式の教育体制を実践することなどを目標としている。

★ 総合内科の診療実績（2016年1月～12月）

外来患者数 43071人
 入院患者数 2207人
 のべ入院数 38331人

★ 総合内科と関連する認定医とその関連

総合内科認定医・総合内科専門医
 プライマリーケア認定医・専門医
 ICD など

別表 3 湘南鎌倉総合病院内科専門研修 腎臓病総合医療センター

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	内科朝カンファレンス（全診療内科合同）						もちまわりで 休日回診
	チーム回診	総回診	腎移植回診	チーム回診	チーム回診	チーム回診	
	病棟透析診療	病棟透析診療	病棟透析診療	病棟透析診療	病棟透析診療	病棟透析診療	
午後	病棟カンファ	腎生検			腎生検		
	病棟透析診療	病棟透析診療	病棟透析診療	病棟透析診療	病棟透析診療		
夕方	症例検討会 抄読会	腎病理カンファ 腹膜透析カンファ	腎移植カンファ 血液透析カンファ		内科・ER 合 同カンファ		
	内科タカンファレンス後、内科当直						

★ 腎臓病総合医療センターの特徴

当院の腎臓病総合医療センターは、集中治療室での急性腎障害に対する多種多様な血液浄化療法や、原発性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群に対するステロイド・免疫抑制剤の投与による腎障害の早期発見・早期治療に取り組む一方、慢性腎臓病に対する腎代替療法として血液透析はもちろん、腹膜透析や生体腎移植（先行的腎移植）を積極的に推進しています。

保存期慢性腎臓病患者や透析患者における全身性動脈硬化や血管石灰化に対する集学的治療や再生医療にも取り組んでおり、ベッドサイドの診療から先進医療の推進、また学会や研究会での発表や論文投稿による情報発信にも力をいれています。

急性期医療から3本柱（血液透析・腹膜透析・腎移植）の腎代替療法まで、また実臨床の診療から臨床研究まで、腎疾患診療を広くカバーしています。

★ 腎臓病総合医療センターにおける専門研修の到達目標

- ① 内科専門医として必要な腎疾患患者の身体診察や鑑別診断、検査や治療を適切に行なうことができる。
- ② 経験症例のなかから学会発表、論文作成を行い、論理的な思考を行うことができる。
- ③ 腎疾患を subspecialty として選択する場合、腎専門医として必要な知識・技術を習得し、腎専門医取得のためのカリキュラムに準じた研修を平行して履修する。

★ 腎臓病総合医療センターの診療実績（2016年）

腎生検 年間 137 件

新入院患者数 586 人 延べ入院患者数 10786 人 延べ外来患者数 13763 人

血液透析導入患者 73 人 腹膜透析導入患者 8 人 腎移植手術件数 12 人

★ 腎臓病総合医療センターと関連する認定施設

日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本アフレス学会認定施設、

別表 4 湘南鎌倉総合病院内科専門研修 循環器科

	月	火	水	木	金	土
午前	抄読会 カンファレンス					
	入院患者診療		循環器 初診	入院患者診療		
	カテーテル検査・治療					
午後	カテーテル検査・治療				外来	/
	入院患者診療					
		症例 検討会		グループ カンファ レンス		
勉強会・当直等						

週間スケジュールの例

土・日は講習会・学会への参加が可能です。

豊富な症例数 症例数詳細→ <https://www.shonankamakura.or.jp/section/section06/>

2016年の症例数は、冠動脈造影：2,849、PCI：1024、アブレーション：508、不整脈デバイス(新規)：135、経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)：48、心エコー：19,529と、いずれも国内有数の症例数を誇ります。常に最先端の治療を学ぶことができる環境です。

スペシャリストが全面バックアップ

当科では、スペシャリストの指導の下、早期からPCIやアブレーションなどの手技に術者として関わることができます。短期間で効率的に多くの症例を経験できるため、循環器専門医のみならず心血管インターベンション治療学会専門医・不整脈専門医などの取得にも有利です。

様々な要望に対応

心臓疾患について幅広い知識の獲得とより多くの症例数を経験したい方、様々なカテーテルインターベンションを極めたい方、学会専門医などの資格を取得したい方、学会発表や論文作成を目指したい方など、様々な要望に対応して経験豊富な上級医が指導いたします。

別表 5 湘南鎌倉総合病院内科専門研修 消化器病センター

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	内科朝カンファランス（全診療内科合同）						
	消化器ミーティング	外科、病理との 症例検討会	消化器ミーティング	消化器ミーティング	消化器ミーティング	消化器ミーティング	*
	内視鏡ミーティング		内視鏡ミーティング	内視鏡ミーティング	内視鏡ミーティング	内視鏡ミーティング	
	上部内視鏡検査	初診外来	上部内視鏡検査	専門外来	上部内視鏡検査	上部内視鏡検査	
午後	下部内視鏡	IVR：RFA	ERCP	下部内視鏡	下部内視鏡	*	
夕	夕回診	夕回診	夕回診	夕回診	夕回診		
	消化器ミーティング						
				医局会：CPC	内科・ER 合同カンファランス		

* 担当患者の病態に応じた診療/日当直/講習会・学会参加など

★ 消化器病センターの特徴

基本理念は 365 日 24 時間、患者さんに則した医療を提供することであり、総合内科、放射線治療センター、外科、救急部などと密に連携をとることで、患者さんに対して迅速かつ最善の医療を提供することを目標としております。研修では豊富な症例と高度な医療設備のもとで、消化器病（消化管、肝胆膵）の診断、治療および内視鏡診断、内視鏡治療法や各種画像診断能力を身に付けることができます。また、将来総合内科医や救急医として進む予定の先生も、総合内科・救急部と連携しニーズに合わせたテーラーメイドのカリキュラムを組む事ができます。

★ 消化器病センター専門研修の到達目標

- ① 消化器疾患患者の医療面接、身体診察を適切に行なうことができる。
- ② 診断に至る検査を適切に組み立て、検査結果を自分で判断し、治療方針を組み立てることができる。
- ③ 学会発表、論文作成の方法を学び、医学の向上に努めることができる。

★ 消化器病センターの診療実績

入院 約 1,800 人/年 外来 約 18,000 人/年
 上部内視鏡検査 約 10,000 件 下部内視鏡検査 約 2,500 件
 腹部超音波検査 約 30000 件 超音波内視鏡検査（針生検含む） 約 250 例
 内視鏡的粘膜切除術 約 1000 件 内視鏡的粘膜下層剥離術 180 例
 内視鏡的膵胆管造影（手術含む） 約 550 例 消化管ステント留置術 約 20 例
 胃食道静脈瘤治療（内視鏡 IVR 加療含む） 約 60 例 ラジオ波熱凝固療法 約 50 例

★ 消化器病センターと関連する認定施設

日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本肝臓学会認定研修施設、日本胆道学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本がん治療認定機構認定研修施設

別表 6 湘南鎌倉総合病院内科専門研修 血液内科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	内科朝カンファレンス（全診療内科合同）				金曜日のみ血液内科全体回診		もちまわりで 休日回診
	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	
	内科検査	内科検査	内科検査	内科検査	内科検査		
午後	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療		
夕方	1週間の入院 患者症例検討	14F病棟カン ファレンス		血液内科外来 患者症例検討	内科・ER合 同カンファレ ス		
	内科夕カンファレンス後、内科当直						

月に1回血液病理カンファレンスを病理診断部と行います。

★ 血液内科の特徴

血液内科は分子標的薬をはじめとして非常に2000年以降の治療の進歩が速い領域です。患者さんも寛解して通常の生活を送りながら治療を続けるかたが多くなりました。患者さんは長期生存されることが多くなり他疾患も合併してくることから、全人的に患者さんをみることが求められます。一度は死を考えるという患者さんも多く、それらの精神的な面をサポートすることでより深い信頼関係が生まれる科だと思います。また当院の特徴として全国でも10本の指にはいるくらいの多種類の血液疾患の患者さんが来院され、経験値が上がります。救急が多いこともあり、初診から血液疾患を診られることも多いです。

★ 血液内科専門研修の到達目標

まずは血液疾患に苦手意識を持っている人も多いと思いますが、どのように診断していくのか、そのキーポイントとコツ、その過程を学ぶこと、フローサイトメトリーなどの特殊な検査の読み方。そして主に骨髄抑制が強くなる化学療法の患者さんを、症状を予測しながら診るという診療を学びます。免疫抑制から通常の経過とは違う感染症治療（診断から抗生剤まで）を経験出来ると思います。骨髄検査の症例も多いので、自分の症例のスライドを検鏡します。

★ 血液内科の診療実績(2016.1～2016.12)

骨髄検査 年間 478件

症例数（初診）	急性骨髄性白血病	15件	悪性リンパ腫	71件
	多発性骨髄腫	15件	再生不良性貧血	3件
	特発性血小板減少性紫斑病	3件	自家末梢血幹移植	10件

★ 血液内科と関連する認定施設

特になし

別表 6 湘南鎌倉総合病院内科専門研修 呼吸器内科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	内科朝カンファレンス（全診療内科合同）						担当患者の病態に応じた診療／日当直／講習会・学会参加
	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	
午後	病棟カンファレンス	気管支鏡検査			入院患者診療	担当患者の病態に応じた診療／日当直／講習会・学会参加	
	入院患者診療 気管支鏡カンファレンス	気管支鏡検査	入院患者診療	気管支鏡検査	読影カンファレンス 病理カンファレンス(月1回)		
夕方		入院患者診療	呼吸機能検査 読影	入院患者診療	内科 ER 合同カンファレンス		
	内科タカンファレンス後、内科当直						

★ 呼吸器内科の特徴

救急及び集中治療を要する急性疾患から在宅医療を含めた慢性疾患まで、腫瘍性疾患、感染症、びまん性肺疾患、慢性閉塞性肺疾患、気道系疾患、アレルギー性疾患、リウマチ性疾患、胸膜疾患、肺循環障害、稀少疾病など取り扱う疾患が幅広い。



★ 呼吸器内科専門研修の目標

①病棟業務

診療チーム（3～4名）の一員として呼吸器疾患全般の患者を中心に20人前後を受け持つ。同時に初期研修医の指導も行う。内科医として必要な手技を指導医のもとで修練する。

②外来業務

週2単位担当する(総合内科初診と専門外来の初診・再診)。

③検査業務

気管支鏡検査やエコーガイド下生検などの検査を指導医のもとで修練する。

★ 呼吸器内科の診療実績・診療体制

①外来：週3回（火・木・金） 各曜日に初診外来担当医

②入院：40～50名（平均在院日数 14日前後）

③検査

- ・気管支鏡 262件（2016年度） 経気管支的超音波検査、EWSも施行。
- ・CT/エコーガイド下生検(肺・胸膜)
- ・局所麻酔下胸腔鏡（月1回程度）

★ 学会認定状況

日本呼吸器学会認定施設

日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定関連施設

日本リウマチ学会認定施設

★ 呼吸器内科と関連する認定施設

湘南藤沢徳洲会病院呼吸器内科、神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科、神奈川県立がんセンター呼吸器内科、